

DEBUT 首長

甲府市長 樋口 雄一氏

リニア新駅周辺、県と調整 外国人客増へ多言語対応



ひぐち・ゆういち 1959年甲府市生まれ。83年専修大学経営学部卒。全労済山梨県本部勤務を経て、99年に民主党から山梨県議会議員に出馬し、初当選。以後4選。2015年1月に甲府市長選に初当選。趣味は剣道、ゴルフ。愛読書は宮城谷昌光の歴史小説。

甲府市 山梨県の県庁所在地でほぼ中央に位置する。人口約19万人。武田信玄の父親の信虎が1519年に市北部のつつじが崎に館を築いて都市整備を始めて、2019年に開府500年を迎える。代表的な観光地は昇仙峡。2027年開業予定のリニア中央新幹線の新駅が南部に建設される予定。

——2027年開業を予定するリニア中央新幹線の甲府市南部の新駅周辺開発について、2月に就任した後藤斎・山梨県知事は横内正明・前知事と違う方針を打ち出している。

後藤知事には新駅周辺に商業や人口などを集積させたいという考えが垣間見える。6月県議会でも方向性を示すかもしれないので、それをとらえて市の考え方をつくっていかねばならない。県庁の新棟や新市庁舎が13年に完成し、今後百年、政治、行政、経済、文化の中心は市北部だ。南北二眼レフでいく。アブ^{あぶ}虻蜂取らずという声もあるが、役割のすみ分けが必要だ。

ただ、新駅が交通の結節点だけではないという知事の考えもわかる。今の人口のままなら新旧市街地の奪い合いだが、新たな定住人口が生まれるなら二-

ズも高まる。全国規模の会議を甲府に誘致したいが、今は新駅予定地近くに展示施設はあるものの、ホテルがない。今夏から県と甲府市、周辺の市町を含めて協議を本格化させたい。

——**衰退が続いてきた甲府市北部の中心街。甲府銀座ビルを取り壊してマンションに建て替える。**

5月に飲食店ビルがリニューアルオープンするなど再生の動きも出てきた。銀座ビルは1階を活用する。商業・飲食スペースにすると周辺と食い合いになるので、イベントや市民が申込制で活用できるスペースにしたい。解体などに補助金を出しており、注文もつけていく。

全国で4番目に古い遊亀公園付属動物園も中心部にある。サンリオの辻信太郎社長が山梨県出身なので、サンリオのテーマパークのノウハウを活用して活性化できないかと思っている。

——**テナント撤退が相次いだ商業施設、ココリのテナントを誘致したイオングループは甲府市の隣の昭和町で大型商業施設の増床を検討中だ。**

市が増床に同意すべきか、もう少し見守りたい。市中心部との共存について判断をまだ下せない。ココリの地下1階のテナントも固まっていない。

——**山梨県を訪れる観光客は富士山周辺に集中している。**

中国人を中心とする外国の観光客が甲府市内に多く宿泊しているが、富士山からもっと甲府へ呼び込みたい。甲府市内で公衆無線LAN「Wi-Fi」や、5カ国語対応の翻訳システムを使って多言語対応できる場所をさらに増やしたい。

——**甲府市立病院が赤字だ。**

独立行政法人にする議論を2年前までしてきたが、市直営になった。その議論の経緯を検証して、独法化で赤字が解消されるか検討したい。民間病院でやっていて、市立病院ではやっていない事業や、公立ということで不採算でもやっている事業もあり、改革は大きなテーマだ。

(聞き手は

甲府支局長 清水 英徳)